

# 芸術学 専攻

設置クラス	日曜専科 高3生・高卒生	日曜 9:30~18:00
	高2日曜専科 高2生 (高1生も受講できます)	日曜 9:30~18:00

## 言葉と行動で芸術を探求する

芸術学専攻は、美術の歴史に興味がある、展覧会の企画・展示に関心がある、将来、美術を研究する学者になりたいといった、美術・芸術を社会に発信する面から美術を探求したい人のためのクラスです。授業では、「英文和訳」「歴史論述」「小論文」など、芸術学特有の入学試験のための演習を行っていきます。

### 〈主な対象大学〉

東京藝術大学、愛知県立芸術大学、金沢美術工芸大学、京都市立芸術大学（総合芸術学科）、多摩美術大学、武蔵野美術大学、筑波大学（芸術専門学群[美術史・芸術支援]）、群馬県立女子大学（美学美術史学科）、および、同志社大学（美学芸術学科）[推薦入試選抜]、青山学院大学（比較芸術学）[推薦入試選抜]

## 指導スタッフ

「ことば」で、美術に立ち向かおうと志す人を、一人ひとりの状況・関心にあわせて、バックアップしていきます。

### ●レギュラー講師

篠田 千尋 愛知芸大芸術学在籍  
 知久 真也 東京藝大芸術学卒  
 森竹 綾乃 愛知芸大芸術学在籍  
 山田 菜楠 名古屋大大学院美学美術史学在籍

### ●チューター

近藤 寛喜 愛知芸大大学院油画在籍  
 示崎 麻紀 愛知芸大大学院彫刻修了



(2025年12月現在・50音順)

年間カリキュラム	全学年共通	
<b>春期講習</b>	学科対策（英語・歴史・小論文）のみならず、多様な芸術ジャンルの作品を鑑賞するための基礎的な知識を身につけます。美術館の見学や、デッサン、模写、調査研究などを通じて、芸術学における各分野の基礎を学び、芸術の現場を体験します。たとえば2025年度は、愛知県立芸術大学・法隆寺金堂壁画模写展示館では、文化財保存や模写の意義を学び、愛知県美術館では鑑賞教育に参加し、名古屋市内のギャラリー巡りでは、仕事の紹介や展示方法の現地学習、徳川美術館では、『国宝・源氏物語絵巻』の鑑賞を行いました。	
<b>1学期</b>	●入塾ガイダンス ●第1回全統共通テスト模試 ●コンクール ●第2回全統共通テスト模試	
<b>夏期講習</b>	<b>[総合型選抜・学校推薦型選抜対策（日曜専科、土曜ゼミ）]</b> 小論文対策に加え、出願書類の作成、面接、ポートフォリオの対策を行います。 〈主な対象大学〉 筑波大学、金沢美術工芸大学、同志社大学（美学芸術学科）、青山学院大学（比較芸術学科）、武蔵野美術大学、多摩美術大学、群馬県立女子大学（美学美術史学科）	
<b>2学期</b>	高2生（高1生）	高3生・高卒生
<b>3学期</b>	<b>[英語]</b> 比較的短めの英文に取り組みながら、英文を読むための基礎となる正確な構文力・文法力を養います。話題は美術に関連したものが中心で、興味を持って取り組めると思っています。 ※英語の得意な人は、高3生・高卒生と同じ課題に取り組みます。	<b>[東京藝大対策]</b> ●英語 ●歴史 ●小論文 ●実技 ●共通テスト対策
<b>直前講習</b> (高1生、高2生も参加できます)	<b>[歴史]</b> 東京藝大の歴史対策は、早期の準備こそが合格への決め手となります。「基礎固め」と「50～300字程度の論述演習」を行います。	<b>[愛知芸大対策]</b> ●英語 ●小論文 ●実技 ●共通テスト対策
		<b>[金沢美大・京都市芸大・筑波大]</b> ●小論文 ●実技 ●共通テスト対策

## 学科試験対策

### 〔英語〕

芸術学に関する英文の講読です。主に美学・芸術学、美術史関係の英文を取り上げます。専門の英文を精読することで、英語の読解力を高めるとともに、専門研究の方法を身につけます。英文の構造や訳し方のプロセスがわかる教材で学習し、ここで基本的な文法・構文のルールを学びます。

### 〔歴史〕

美術史、文化史、思想史を中心に、300～600字の論述演習に取り組みながら、東京藝術大学特有の形式と内容に関する特徴をつかみます。高得点をとるのにどのような勉強法が有効なのかを実践的に確認してもらいます。

1学期：原始から中世を中心に

2学期：近世から現代を中心に

### 〔美術館見学〕

実際に美術館へ足を運び、作品に触れることで、美術・芸術に関する知識・関心を深めます。



## 小論文対策

### 〔調査研究〕

美術全集、美術雑誌、専門書、学術論文の読み方や探し方、小論文の書き方などを学んでいきます。2025年度は、アートライブラリー（愛知芸術文化センター）で行いました。



### 〔コンクール〕

各自興味をもつ作品ないしテーマを選び、調査研究を進めます。定期的に発表を行い、討議を行いながら問題意識を深めていき、その成果をコンクール発表としてまとめます。



### 〔作品研究〕

たとえば日本美術では、代表的な日本の絵画について画像分析や当時の記録（古文・漢文）を読み解き、作品の見どころを掘り下げて学びます。2025年度は『国宝・源氏物語絵巻』を詳しく取り上げました。

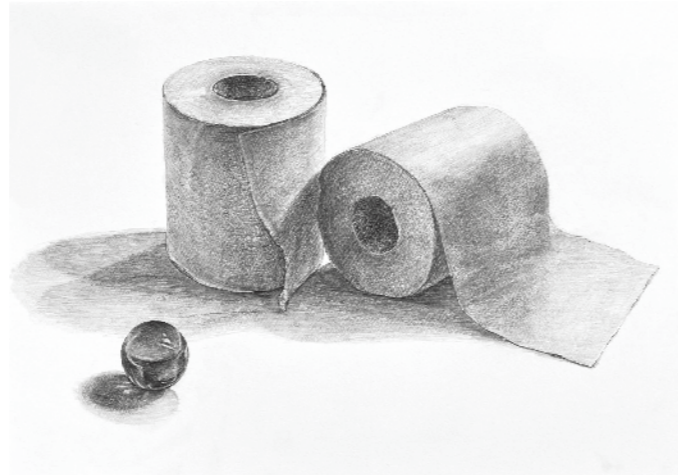


**実技対策** 希望者は、日曜専科クラス・午後の時間帯に実技対策を行っていきます。



**金沢美術工芸大学 対策**

デッサンと構想案を組み合わせた課題です。デッサン力と柔軟な発想、表現力が求められます。



**愛知県立芸術大学 対策**

短時間の中で、基本的なデッサン力、完成度の高さが求められます。

**【個別指導】**

あまり絵を描いたことがない人は、どう手をつけていいかわからない人も多いでしょう。基本的な描き方やコツを指導していきます。



**【デッサン】**

制作者側に立つことでしか気づくことのできない点など、基本的な技術を身につけることで、作品に対する視野を広げます。



**【現状模写】**

制作に使われた素材や技法などを体験することでじっくりと作品への理解を深めます。



**合格者からのメッセージ**



**根村 明香里さん**  
芸術学日曜専科  
加茂高校出身

**合格** 愛知県立芸術大学 芸術学専攻  
関西学院大学 美学芸術学専修

二次試験に向けて何を勉強すればいいのかわからなかったのですが、河合塾で先生方にアドバイスをいただいたおかげで小論文の記述力も上がり、苦手な英語も克服することができました。河合塾で勉強したことが自信になり、問題の形式が変わっても落ち着いて解くことができました。私が受験した年は倍率が高く来年以降もその可能性があると思いますが、後輩の方も最後まであきらめず頑張ってください。



**吉田 茉央さん**  
2024年度 芸術学日曜専科  
金城学院高校出身

**現役合格** 愛知県立芸術大学 芸術学専攻  
実践女子大学 美学美術史学科

愛知芸大では、日本美術・西洋美術・現代アート・美学などの専門分野を1年生のうちから学ぶことができます。また、1学年5人という少人数制であるため、先生方と距離が近く、気軽に相談することができます。1年生と2年生の基礎実技の授業では、日本画や油絵などの実習を行います。芸術を理論的視点だけでなく、制作者側の視点も学べるのは、愛知芸大ならではの魅力だと思います。



**赤木 修文さん**  
2024年度 芸術学日曜専科  
名古屋大学教育学部附属高校出身

**現役合格** 金沢美術工芸大学 芸術学専攻

金沢美大の芸術学専攻ではプレゼンテーションをする授業が多々ありますが、美術関連の蔵書が充実した大学図書館や、隣に立地する石川県立図書館で資料を探したり、金沢21世紀美術館で学芸員の方から話を伺うなど、金沢という地の利を生かしつつ、学びを進めています。また、校舎が新しく、コンピュータールームや音響にこだわったシアターなど設備が充実しており、制作活動もしたい私は積極的に利用しています。

**大学生生活紹介**

**芸術学 Q&A**

**Q.芸術学とは？**

A.芸術学とは、芸術を「ことば」で語る学問です。良い作品があれば、「なぜ」「どのように」良いのかを考え、他者へと「伝える」ことをめざします。また、美術、美術史、美学などを研究します。美術館学芸員、研究者（美術史家、美学者）、批評家、美術教師、雑誌編集者など、美術にかかわるさまざまな職につくためのスキルを獲得します。

**Q.大学で何が学べますか？**

A.主に美術に関する授業（美術史、美学など）が行われます。特に芸術大学の芸術学科では、実技科目が開講されており、油画、日本画、彫刻、写真、キュレーションなどについても網羅的に学ぶことができます。

**Q.どんな人が芸術学に向いていますか？**

- A.こんな人が向いています！
- ・美術にかかわる仕事がしたい（学芸員、批評家、画廊など）
  - ・美術館・博物館が好き、企画展を見るのが好き
  - ・文章にかかわる仕事がしたい（ライター、編集者、作家など）
  - ・無名作家を世に知らせたい
  - ・アートイベントを開催してみたい
  - ・学者になりたい
  - ・アーティストになることに興味がある
  - ・裏方が好き

**Q.実技一辺倒で、勉強を真面目にやってきませんでした。大丈夫でしょうか？**

A.そのような状態で芸術学科へ来て、1年で合格した例は過去にあります。個人の進路希望や学習進度に合わせた課題の取り組み、入試対策を行っているので、安心して学習できると思います。むしろ、実技の経験は他の受験生と差をつける強みとなるはずなので、小論文などで生かしてほしいです！

**Q.芸術学科を受験するにあたってどのようなことを意識すると良いですか？**

A.もちろん受験に向けた勉強も大切ですが、文章力や読解力、美術に対しての関心の高さも重要です。普段から読書をする心がけたり、美術館の展覧会や寺社を訪れたりすると良いでしょう。自分が好きなものを見つけて、それについて語る力や知識を身につけましょう！

**美術の仕事がしたい人にとって必要な基礎が学べます。**

**堀口 朝望さん**  
静岡市美術館学芸員

**名古屋大学** 人文科学研究科博士前期課程（美学美術史学）修了  
**愛知県立芸術大学** 芸術学専攻卒業  
2018年度 芸術学日曜専科  
加納高校出身



OB・OGからのメッセージ

愛知県立芸術大学の芸術学専攻に進学し、学芸員として就職することができたのは、河合塾で得た学びがあつてこそだと感じます。河合塾では、苦手意識のあつた英文和訳や長期的な目標を見据えた努力の仕方を教えていただき、受験生としても人間としても大きく成長することができました。また、講習では美術史に関する本や作品図版をたくさん目にする機会があり、大学受験と美術の両方に向き合えた幸せな時間だったと感じています。

河合塾の芸術学クラスの魅力は、受験を越えて学芸員をめざすための基礎的な力を身につけられるところです。たとえば、英文和訳では美術について書かれた英文を用い、英文法や美術用語の丁寧な復習を積み重ね、書き手の主張を正しく理解できる力を培います。また、美術作品を言葉で論述する「ディスクリプション」（小論文対策）では、作品をよく見る観察眼と、それを的確に伝えるための文章力を身につけることができます。これらは、受験を終え大学に入って美術史を本格的に研究するときにも役立つばかりです。

就職した今、当時私が河合塾で学んだことは大いに生かされていると感じます。私は大学院修了後に学芸員として就職しました。現在は主に教育普及と西洋美術の展覧会を担当し、大切な美術作品を守りながら多くの人にそれを知ってもらうための仕事をしています。展覧会の準備も教育普及ワークショップの企画も、まずは自分が作品を丁寧に観察し、欧文/邦文を問わず資料を読むなどして理解し、そのうえでそれを分かりやすく、かつ楽しく伝えるためにはどのような工夫が必要かを考えます。これらに向き合うための素地は、芸術学クラスの学びのもとで養うことができました。将来美術を仕事にしたい人に必要な基礎が学べる環境が整っているのが河合塾の芸術学クラスです。この場所をきっかけとして、皆さんが将来の目標に近づくための力を身につけられるよう願っています。



1.2. 美術館でのワークショップの様子